

JA みのぶ



コープさっぽろ組合員親子稲刈り体験
(9月30日、美唄市峰延町峰樺3区)



わらび座のミュージカル「KINJIRO!」
(10月20日、峰延中学校体育館)

■発行日/平成30年11月1日/No.1399号
■発行/峰延農業協同組合

〒079-0192 美唄市字峰延37番地

Tel 0126(67)2111 Fax 0126(67)2793

ホームページアドレス <http://www.ja-minenobu.or.jp/>

■編集/総務課 ■印刷/空知印刷株式会社

玄武長米ふる里籠手祭りの音楽会



**峰延農協年金友の会
パークゴルフ大会開催**

10月5日、峰延農協年金友の会（会長 吉田 栄）のパークゴルフ大会が三笠市パークゴルフ場「サン・パーク」（三笠市岡山）で開催されました。

本大会は、7月11日に続き本年2回目の大会、プレー開始に先立つて吉田会長が「怪我のないよう楽しんで親睦を深めて下さい。」と挨拶を述べ、続いてJAの安達常務理事の挨拶、競技の注意事項の説明が行われました。

-報徳-

積小為大

翁のことばに、大きな事をしたいと思えば、小さな事を怠らず勤めるがよい。小が積もつて大となるからだ。およそ小人の常として、大きな事を望んで小さな事を怠り、できにくくことに気をもんで、できやすいことを認めない。それゆえ、ついに大きな事をし遂げられない。それは、大は小の積んで大となることを知ら

開催当日は快晴で参加者は熱のこもったプレーをしていました。参加者30名（男性22名、女性8名）は9組に分かれ3つのコースから一斉にスタートしました。優勝者は、男性は夏の大会に引き続き渡辺幹夫さん（峰延東松盛会）、女性は佐藤千江子さん（岩峰こぶし会）で競技終了後に表彰式が行されました。

第9回（10月定例）

理事会の開催について

10月26日開催の第9回（10月定期）理事会において次の事項が決定されました。

- ◆付議事項 ◇
- 1. 持分の減口について

また、万物の書物があつたところで、無学の者にはしようがない。隣に金貸しがいたところでこちらに借りる力がなければしかたがない。向かいに米屋があつても、錢がなければ買うことは出来ぬのだ。だから、書物を読もうと思えば、いろはから習い始めるがよい。家を興そうと思えば、小から積み始めるがよい。このほかに術としてはないので。（夜一四・一五）

青年部がくず米集荷

本年もJA青年部が青年部事業として一元集荷に向けてくず米を集荷しています。9月22日、29日、10月6日、13日、21日の5日間に管内全域で集荷を行いました。



生産者の搬入毎に重量と水分測定

大豆乾燥調製施設が操業開始
美唄市峰樺3区にある大豆乾燥調製施設の本年産大豆の受け入れ



が10月8日から始まり10日から乾燥調製作業を始めました。

当JA管内の本年度の大豆作付は390haで前年を27%上回る作付面積となっています。

軽トラ市『大豊穣祭』を開催

10月6日、当JA国道沿いの駐車場で今年最後の軽トラ市を『大豊穣祭』と称し開催しました。

9月の軽トラ市は、台風や胆振東部地震の影響で開催を中止しましたが、6日は秋晴れで大勢のお客さまに来場いただきました。会場では、生産者が持ち込んだ新鮮な白菜等の秋野菜が数多く並び、当JAからは旬の味覚の生鮭や秋刀魚、柿やりんごの他、峰延



菜宝箱の出店



じゃがいも・玉葱の詰め放題

産の新米「ななつぼし」も並びました。特に好評だったのが、じやがいもと玉葱の詰め放題で、皆さん楽しそうに詰め込み張り裂けそな袋を重そうにしていました。会場に設けたテントでは、先着100名に新米「ななつぼし」のにおぎりと鮭汁が無料で振舞われ、皆さん「鮭の出汁が出て美味しい」とおにぎりと一緒に頬張り秋の味覚を楽しんでいました。

会場には、「yacotto」の手作りパン、「菜宝箱」の塩茹

で落花生、「気ままな主婦の会」の味噌や味噌ドレッシング、「峰千加」の調理用トマトとトマトソースが出店・販売した他、美唄のメナード化粧品の美容部員による出張ハンドエステもお目見えしました。今年度の軽トラ市は、この「豊穣祭」をもって終了となります。大勢の皆さんにご利用いただき誠にありがとうございました。

組合員の氏名及び資格変更の手続きについて

J Aでは組合員の台帳整理を常時行っていて、組合員資格等に変更(氏名・住所、死亡・相続、離農)があった場合は、必ず変更手続きをお願いいたします。変更手続きについてはJA総務課にお尋ね下さい。

なお、任意脱退は当JA事業年度末(1月31日)の60日前の翌営業日から事業年度末の最終営業日の期間は手続きができませんのでご了知いただきますようお願いいたします。任意脱退は事業年度末の60日前の営業日までに、減口は理事会の承認が必要ですので、その事業年度の最終理事会開催前までに手続きを行っていただくことで、その年度末での出資金払い戻しとなります。出資金は長期的・安定的なJAの運営資金として使用しているため、貯金解約のような即時払い戻しはできません。

(JAみねのぶ総務課)

J Aみねのぶ冬期営業時間 (平成30年11月1日~平成31年3月31日)

| | 平日(月曜~金曜) | 土曜 | 日曜 | 祝日 |
|--------------|-----------------|-----------------|----|----|
| 本部事務所(ビル2階) | 午前9時~午後5時 | | | |
| 金融店舗(ビル1階) | | 休み | | |
| 営農事務所 | | | | |
| 営農資材店舗 | | | | |
| 精米所 | *精米所は毎週木曜日休み | | | |
| ATM(現金自動預払機) | 午前8時30分~午後6時30分 | 午前9時~午後6時30分 | 休み | |
| J A生活店舗 | | 午前9時30分~午後6時30分 | | |
| ホクレン峰延給油所 | 午前8時~午後7時 | 午前8時~午後6時 | | |

【ご留意】

*金融窓口業務(貯金・共済・融資・出納)のうち貯金預払・共済掛金払込・貸出金償還等の現金を伴う業務は、平日(月曜~金曜)の午前9時から午後4時までです。

*為替送金の取扱いは、平日(月曜~金曜)の午前9時から午後3時までです。

冬期営業時間に変更のお知らせ

当JAの営業時間は、11月1日から来年3月31日まで期間、冬期営業時間に変更なり次の通り営業させていただきます。

変わらぬご利用をいただきますようお待ち申し上げます。

-食育-

**コープさつぼろ組合員
親子が「お米を知る」
稲刈り作業体験**



はさ掛けで稻束運び

9月30日、コープさつぼろ組合員親子による稲刈り作業体験が行われました。稲刈りは、5月27日に峰樺3区の圃場に田植え体験で植えた「ふつくりんこ」。参加したのは、コープさつぼろ組合員の13組の親子31人の皆さんで、JA青年部と女性部、朝取り野菜生産者の会の皆さん協力を得て行されました。最初に、担当職員から鎌の使い方、稻束の縛り方の説明を受けました。曇天で少し小雨模様でしたが、参加した親子はお互

い協力し合いながら楽しそうに励んでいました。稲刈りの後ははさ掛けで稻束を抱えて運びはさ掛けをしていました。

農作業の大変さを学んだ後は、農作物検査場所に移動し、野菜スタンプによるエコバッグ作り体験です。蓮根やピーマン、ナス等を切って断面に色を塗り無地のエコバッグに押し付けて模様にして自分オリジナルのエコバッグを作りました。

また、当JAで推進している特色ある米作りについて担当職員から説明がありました。



野菜の断面スタンプでオリジナルのエコバッグ作り

-食育-

**コープさつぼろ組合員
親子が脱穀体験**

10月14日、コープさつぼろ農業交流で脱穀体験が行われました。9月30日に稲刈りしはさ掛けしてあつた稲の脱穀を行いました。参加したのはコープさつぼろの組合員親子34名と生協職員6名。峰樺3区の農作物検査場所に電動ミニ脱穀機3台を設置し、はさ掛けしてあつた稻束を持ち込みました。

続いて、3品種で作ったおにぎりを全員に配り、品種当てクイズを行い盛り上りました。



JAが取り組む特色ある米作りを説明



感謝状を受け取る森川組合長

脱穀体験の参加者から当JAの農作業体験の受け入れに対して感謝の気持ちを込めて感謝状が森川組合長に手渡されました。

子供たちは、持っている稻束が臼（こきどう）に巻き込まれないよう真剣に握り締めて脱穀作業を体验していました。脱穀した後はミニ粉碎機で粉碎し、粉碎が取れて玄米が出てくる様子を見っていました。農協の担当者から、脱穀機の下部に貯まつた粉と粉が机から出た玄米を並べて見せられ、いつも食べている白米になるまでの工程の説明を受けていました。



参加者全員で集合写真

脱穀作業体験の次は当JAの精米施設を見学、玄米が白米になる工程の説明を受け、出来上がった白米を小売用の紙袋に充填する作業を体験しました。

昼食はJA三階会議室で新米のおにぎりを食べていました。



JA精米施設で小売白米の紙袋縛り体験



脱穀作業体験



怪我しないよう慎重に稻刈り



稻束の縛り方を教える伊藤青年部員

-食育-
**峰延小・南美唄小が合同で
稻刈り作業体験**

10月5日、JA青年部（部長中越健祐）とJA女性部（部長吉村俊子）が中心になり食育事業の一環として、峰延小学校と南美唄小学校の2校合同で、稻刈り・はさ掛け作業体験が行われました。

参加した児童は両校合わせて17名（うち峰延小学校は7名）で、指導役としてJAの青年部7名、女性部2名が参加しました。圃場は沼田昌樹（拓北）さんの圃場で5月28日に田植体験で同じ児童が植

えた「きたくりん」、青年部員と女性部員が稻刈り作業、稻を束ねる作業、はさ掛け作業を指導しました。

稻刈り作業開始前に、笛木敏文青年部理事が鎌の使い方について「稻の根元を掴み、一気に鎌を引いて下さい。危険な鎌を使つて慣れない稻刈りをするので怪我をしないように。」と説明しました。児童たちは、最初は緊張した面持ちで鎌を使い、徐々に慣れて楽しそうでした。

刈り終えた稻を束ねる作業はコツが必要なため、児童たちは青年

-食育-**峰延小・南美唄小が合同で
脱穀作業体験を行う**

10月24日、峰延小学校と南美唄小学校が合同で脱穀作業体験を行いました。脱穀体験はJA青年部



はさ掛け作業



電動脱穀機は一番楽です



力の必要な千歯こき

(部長 中越健祐)が中心となつて取り組んでいる食育事業で、両校の児童が5月28日に田植え体験、10月5日に稻刈り体験を実施し、はさ掛けしてあつた稻を脱穀しました。

参加したのは、両校の5年生の児童16名(うち峰延小学校は7名)で、指導役はJA青年部員7名、峰樺3区にある農産物検査所の屋根のかかつた検査棟で行われました。

作業開始に先立つて、中越部長は「皆さん、5月に田植え、10月に稻刈り・はさ掛けした米の最終段階の脱穀です。作物を作る大



息を合わせて足踏み脱穀機で脱穀する児童



唐箕掛けをする児童

変さと収穫の喜びを体験し、食の大切さを学んでもらえたと思いました。

脱穀に使う農機具は、「千歯こぎ」「足踏み式脱穀機」「電動のミニ脱穀機」の3種類、風で穀類を精選する唐箕(とうみ)、電動の糲摺り機(ミニダッブ)が用意され、最初に青年部内田貴大宮農専門委員長からそれぞれの機能、使い方、使用の注意点が説明されました。

3種類の脱穀機は全児童が作業を体験し、最後に脱穀で稻束から落ちた稻わら等の混じった糲を唐箕で稻わら等を分別し、糲すり機



小林篤一顕彰公園の 冬囲い完了



大豆の検査状況

で糲殼と玄米に分ける様子を見学しました。

脱穀後の稻わら等の混じつた糲、唐箕掛けした糲、糲摺りした玄米を内田営農専門委員長が児童に見せてその違いを説明していました。3種類の脱穀機を全員が一通り体験した後は好きな機械を繰り返し体験していました。

最後に、生徒の代表が青年部の皆さんにお礼と作業体験の感想を述べ、「昔の機械の千歯こきは力が必要で大変でした。現代の機械はモーターで動き楽でしたが、一番楽しかったのは足踏み式脱穀機でした。」等と述べていました。

10月13日、美唄シルバー人材センターに作業を委託して公園内の樹木の冬囲いを行いました。

大豆の検査始まる

10月22日、本年産大豆の最初の農産物検査が行われました。検査は乾燥調製を終えた都度に検査を行い、今後5回から6回の検査を行います。

22日は峰樺3区の農産物検査場所で農産物検査資格を有するJA職員3名が検査に当たり、生産者4名の「ツルムスメ」471俵の検査が行われました。



等級検査状況

II職員の退職II

須藤和人さんが平成30年10月31日付で定年退職（満60歳）されました。

昭和52年3月に当時の美唄工業高校を卒業して当時あつた岩見沢市農業近代化事務所に1年間勤務しました。昭和53年4月に当JAに採用になり、以来40年8カ月勤務されました。最初に当時の営農部土地改良係に配属され7年、続いて営農部振興課に4年、営農部営農推進課に2年、営農部販売課に

6年、営農販売部基盤整備事務所主任に1年、金融部組合員相談課長に4年、生産販売部営農資材課長に4年、総務部総務部長と総務課長、生活課長、融資審査課長を兼務し4年、涉外課長1年、平成27年4月から定年退職までの3年7カ月はいわみざわ土地改良推進事務所に出向されていました。土

地改良業務は在職中を通算して13年7カ月となり他の業務より長い担当となります。

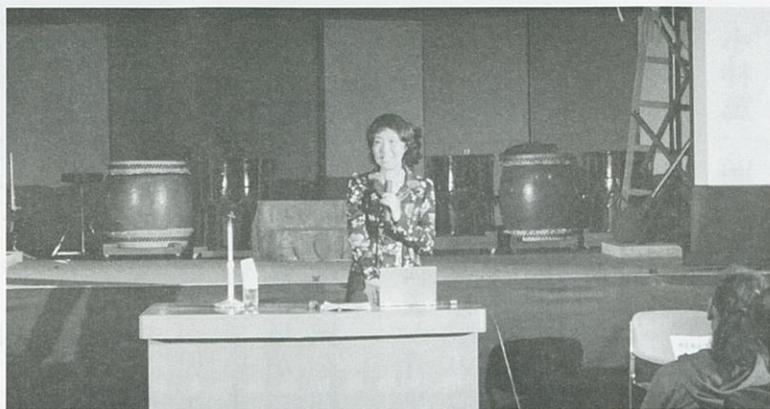
総務部長の時には他に2～3課長職を兼務し多岐にわたる業務を粘り強く遂行され、誠心誠意お勤めいただき農協事業に貢献されました。

長年のご苦労に感謝すると共に退職後もご健勝で過ごされますようご祈念いたします。

なお、退職後は再雇用制度に沿つて準職員として勤務していただいているます。

報徳交流会開催
中桐万里子氏の講演と
金次郎ミュージカルを公演

10月20日、当JAが企画して報徳交流会を開催しました。第1部が二宮尊徳（金次郎）7代目子孫の中桐万里子氏の講演、第2部が



中桐万里子氏の講演

劇団わらび座のミュージカル「KINJIRO! 本当は面白い二宮金次郎」の公演を峰延中学校体育館で行いました。峰延小学校の児童、峰延中学校の生徒、組合員等の約190人が参加しました。

中桐万里子氏は、当JAが開催した平成28年10月31日開催の報徳講習会で講師に来ていただきて、スライドを使って解りやすく優しく語り掛けるように金次郎の仕法を説きました。

第二部の二宮金次郎（尊徳）の

ミュージカルでは、川の氾濫により荒地となつた田畠を見た村人達が働く気力を失い、金次郎が村人達を鼓舞し村の復興をするところから始まりました。一家離散に追い込んだ氾濫の荒地を肥沃な耕地に変えたことから金次郎は小田原藩の家老・服部家に奉公し家政再建を成功させ、更にその大胆で徹底した財政再建の取り組みは小田原藩主・大久保忠真公の耳にも入り、小田原藩再建を頼まれました。村民との対立など紆余曲折を重ね村の復興を成功させるという物語を音楽に合わせて歌つて踊る本格的なミュージカルで、農業、経営、教育、政治など様々な分野に才能を発揮した金次郎の波乱万丈な人生をドラマチックに約1時間半にまとめたミュージカルでした。

**管内で収穫したハスカップの加工料理試食に生産者招待
美唄尚栄高等学校**

本年7月2日に美唄尚栄高等学校フード系列2年次19人の生徒が、当JA管内の佐久間農園でハスカップ収穫実習を行いましたが、この時に収穫したハスカップを加工した料理の試食に峰延ハスカップ生産組合と当JAが学校に招待を

受けました。

10月17日、峰延ハスカップ生産組合から収穫実習を受入れた佐久間富夫さん夫婦と菊池茂子さん、JAから伊藤専務理事と山本理事、担当職員2名が高校を訪れました。

最初に校内の加工施設を見学、続いてこの日に生徒が作ったハスカップが練り込まれたパウンドケーキのレシピの説明を受け、生徒と一緒に試食を行いました。事前に生徒が作ったハスカップジャム

も全員で試食し甘酸っぱい味が美味しいと好評でした。

学校は生徒のアイデア創出と意欲向上に役立てようと、生産者と生徒が交流する場を設けたと説明していましたが、訪れた生産者の皆さんには自分たちも生産意欲が沸くと話していました。

当JAは、今後も生産者と学校がお互いに連携し、関係を深めて新しい取り組みを目指すこととしています。



生徒が作ったハスカップジャムとパウンドケーキ



招待を受けた伊藤専務とハスカップ生産組合の皆さん

農協法公布記念日にあたつての組合員・役職員へのメッセージ

北海道農業協同組合中央会 会長 飛田稔章



このたびの災害により被害を受けられた皆様ならびにそのご家族の皆様に、心よりお見舞い申し上げます。

一日も早い復旧・復興へ向けて、JAグループ北海道は組織を挙げて全力で支援に取り組んでまいります。

さて、昭和22年11月19日に農業協同組合法（農協法）が公布され、今年で71年を迎えました。

戦後の食糧不足の混乱期に、農業者の協同組織の発達を通じ、「農業生産力の増進」と「農業者の経済的地位の向上」を図り、国民経済の発展に寄与することを目的として、農協法が制定され、農協が設立されました。

農協は「農業者による農業者のための組織」であり、協同組合原

則に掲げる「自主・自立」「民主的運営」の基本に立ち、相互扶助の精神のもと、幾多の困難な状況を乗り越え、組合員の皆様の営農と生活の安定並びにより良い地域社会の実現を目指し、総合事業を展開しながら今日に至っております。

例えれば安全・安心な食品の生産と、豊かな生活に役立つ購買品の供給、地域の豊かな暮らしと経済活動のために寄与する金融事業、総合的な暮らしの保障のための共済事業、健康な日常生活を営むための医療・福祉事業のほか、地域社会に貢献するための様々な社会的取組みも行なわれております。

地震や風水害による大規模災害が発生した際には、各協同組合が物資の支援、ボランティアの派遣、募金活動等を展開することにより、被災地域の復旧・復興支援に大きな役割を果たしております。

本年9月の災害時にも、組合員・JA・連合会等の間における

ともに、協同組合の力を改めて認識させて頂いたところです。

このように協同組合は社会と地域の人々の暮らしのために、永年に亘って多くの分野でその役割を発揮してきているのです。そのような中、2016年に「協同組合の思想と実践」がユネスコ無形文化遺産に登録され、更に本年4月には、我が国の農協、漁協、生協、労働金庫、森林組合等の協同組合が、協同組合間の連携によって力を結集し、地域課題の解決を目的として日本協同組合連携機構（JCA）が発足したところです。また、第29回JA北海道大会では、前回大会で設定した将来ビジョンである「北海道550万人と共に創る『力強い農業』と『豊かな魅力ある農村』の実現」を継承し、「農業所得の増大」と「多様な担い手の確保・育成」と「次代につなげる協同組合の価値と実践」に向けて、JAグループが一体となつて取組むこと

と致しました。

農業協同組合に集う組合員、役職員の皆様は、このように世界的に評価され、社会的意義のある協同組合の仲間であることを誇りとしながら、協同活動の輪（食と農でつながるサポートー550万人づくり）を広めて頂きたいと考えております。

このことが新自由主義経済への対立軸としての協同組合の存在意義を高め、永年に亘り先人が築き上げた地域農業並びに地域社会の基盤をさらに発展させ、持続可能な農業へと繋がるものと確信しております。

最後になりますが、JAグループ北海道は、協同組合の理念と精神を事業の拠り所とし、今後とも組合員の皆様が夢と希望を持つて営農と生活が続けられる環境を整えること、地域農業とJAの発展に全力でサポートすることをお誓い申し上げ、農協法公布記念日にあたつてのメッセージと致します。

JAグループ通信

J A グループ北海道 × コンサドーレ札幌『北海道応援マッチ』特集号

No.28

毎月、JAグループ北海道の連合会・中央会の活動を紹介しております。
今月は、平成30年9月29日に北海道コンサドーレ札幌ホームゲーム(vsサガン鳥栖戦)を
JAグループ北海道と北海道コンサドーレ札幌による『北海道応援マッチ』として
開催しましたので、会場での各取り組みをご紹介します。

JAグループ北海道は、北海道コンサドーレ札幌とともに、スポーツを通じてたくさんの皆さまに食や農業の大切さを伝える活動を行っています。

9月29日のサガン鳥栖戦は、JAグループ北海道と北海道コンサドーレ札幌による『北海道応援マッチ』として開催しました。

来場者に全道各地のJA特産品を550名様にプレゼントする企画や、JAグループ関係のブースを回るスタンプラリー抽選会、「JA2MP」チケットインキャンペーンを実施しました。試合はコンサドーレの劇的な勝利に終わり、JAグループ北海道よりMVP賞の贈呈を行いました。チームのさらなる活躍を期待し今後も北海道と共に盛り上げるパートナーとして応援して参ります。



JA北海道中央会



JAバンク北海道では、会場で「口座開設を予約して頂いた方」に抽選でコンサドーレ観戦券またはコンサドーレ・オリジナルマフラーを、「ちよリスと一緒に撮影し、SNSに投稿して頂いた方」にちよリス・ブランケットをプレゼントしました。小野伸二選手も応援に駆け付け大盛況となり、多くのコンサドーレサポーターの方にJAバンクをPRすることができました。



JA北海道信連



J A 共済連北海道では、地域貢献活動の紹介チラシを作成し、粗品とあわせて配布することで、交通安全を呼びかけしました。また、小さいお子さまには、ひとのわグマのおなかを的にし、ボールを投げていただきました。小野伸二選手も応援に駆け付け大盛況となりました。来場者の皆さまにJA共済連の交通安全にかかる活動を知つていただきました。



ホクレン



ホクレンは来場者先着2000人に顆粒片栗粉「とろりんぱつ」を配布しましたが、「ホクレン大収穫祭」の告知及び全国発送のチラシを配布し、来場者に対しPRを行いました。ブースには北海道コンサドーレ札幌の田中雄大選手、藤村怜選手、クラブマスコットの「ドーレくん」が相次いで応援に駆け付け、配布を手伝うとともに、快く握手などに応じ、集まつたサポーターたちを喜ばせました。

今後も北海道コンサドーレ札幌の活躍を応援していきたいと思います。



JA共済連北海道

